



第 2 号

平成17年 4月 7日

発行

朝日庄内森林環境保全
ふれあいセンター

朝日山地森林生態系保護地域

第 2 回管理委員会を開催 - 今年度の実施状況などを協議 -

今年度第 2 回目の管理委員会が、2月23日に山形市の山形県自治会館で開催されました。

今回の議題は、今年度事業の実施状況と来年度事業の予定、平岩山避難小屋計画の検討状況、「歩道の整備のあり方」の検討について、などです。



(中央が浅沼座長)

今年度事業の実施状況

モニタリング調査のうち、森林植生調査については、今期の台風により保存地区のブナの枝が折れ、保全利用地区では、プロット内最大のブナが風倒したこと。ゼンマイなど山菜の出現は、種により増減が見られることなどが報告されました。

委員から、植生の変化は単年度では変わらないのではないか。保全利用地区のプロットに山菜の採取がないのであれば調査箇所の変更や追加すべきではないかなどの意見が出されました。

渓流魚調査については、イワナの生息数は統計解析の結果、禁漁区の方が多いこと。大きな個体ほど成長が少ないこと。体のサイズから年齢を推定することが可能であることが報告されました。

委員からは、遺伝子レベルの調査が必要ではないかなどの意見が出されました。これに対し、実際に調査を担当された金沢大学大学院鎌田助

教授から、そのためには関係する流域における放流のデータが必要であるというアドバイスがありました。

次に、ボランティア巡視について、巡視員の登録数は、東北局が63名、関東局が6名で合わせて69名であること。(以下、東北局関係)巡視員の37%(23名)から「巡視員報告書」が提出されたこと。合同パトロールを実施したことなどが報告されました。

また、巡視結果の集約と検討課題に対する意見交換などを目的に「巡視員会議」を開催したことが報告されました。

委員からは、巡視員については、100名規模としているが、今後どのようにして確保していくのか。合同パトロールは源流部もすべきである。車上荒らしなどについては厳しく対応すべきであり、緊急通報体制の確立が必要ではないかなどの意見が出されました。



(金沢大学大学院鎌田助教授)



(高藤(金)委員)

次に、前回の管理委員会で、地域の住民がどこから保全利用地区なのか保存地区なのか分かるものが必要との意見を踏まえ、標識の設置について提案を行いました。

委員からは、保全利用地区の標識は、利用を助長するもので、文面を変えてほしい。保存地区、保全利用地区の両方に使える標識ではどうかなどの意見が出されました。

平岩山避難小屋計画の検討状況

前回の管理委員会で、山形県で建設を検討している平岩山避難小屋について、情報提供されました。今回は、その後の検討状況について山形県から説明を受けました。

山形県からは、計画している避難小屋の概要や当初計画地と新たな候補地の比較などについて説明がありました。

委員からは、設定委員会での議論経過はどうだったのか。平岩山避難小屋は、安全な登山のために必要である。コアに避難小屋を建設することは反対であるなどの意見が出されました。

歩道の整備のあり方の検討

歩道の現状を見ると、最近、全国各地で、歩道整備に関係した無断伐採などが見られること。歩道の整備が十分でなく荒れた状態になっている箇所が見られること。事故の責任の所在が不明確であることなどが上げられます。

当森林生態系保護地域にも多くの歩道が存在することから、その整備のあり方を検討する必要があると考え、今回、新たな議題として提案したものです。

対策として、歩道の管理の明確化を図ること。次に、自然を損なわず、安全に利用できる歩道の整備は如何にあるべきか。そして、誰が主体となって整備するのかなどについて、地域の特色を生かした整備のあり方を検討する必要があるのではないかと説明がありました。

委員からは、歩道が荒れている現状はあるものの、あれもダメ、これもダメと網をかぶせることには反対である。安心して登山道の整備ができるようにサポートしてほしい。これまで、環境省・県・市町村などが連携して維持管理してきた経緯がある。今後とも係わりが一番大事と考えている。自然環境保全なのか。ワーキンググループで議論すればよいなどの意見が出されました。

活発な議論により予定の時間を30分以上も超過し終了しました。



(委員会の様子)

巡視員会議を開催

- マナー問題など意見交換 -

朝日山地森林生態系保護地域を適正に保全管理するために、巡視員を募集・登録し、ボランティアによる巡視活動や合同パトロールを行いました。夏山シーズン終了に伴い、巡視結果の集約と意見交換を行い、今後の取組みに役立てるために巡視員会議を12月18日に朝日村の「すまいる」で開催しました。

会議には、巡視員が25名、管理委員会の浅沼座長らが出席して行いました。

井上計画部長の挨拶に続いて、巡視員から提出された巡視員報告を「マナー問題」、「登山道整備問題」、「保全管理問題」、「合同パトロール」等にまとめた資料の説明があり、その後に意見交換を行いました。



(会議の様子)

会議での意見の概要は次のとおりです。

マナー問題

山菜採りや溪流釣りを目的で入山している者のゴミの投棄が目に見えるものがあること。関係する市町村やマスコミなどを活用してマナーを守ることをPRすべきであること。林道終点などにマナーを啓発する看板等を設置する必要があることなど。

登山道整備問題

登山道が掘れている箇所があるが、改修は人力なので追いつかない状況であること。麻袋を運ぶことなど巡視員がボランティアで協力したらどうかなど。

保全管理問題

ショートカットについては、登山団体や関係機関、地元が連携して対応する必要があるのではないかと。キャンプが出来ないところにテントが張られているので対応策が必要ではないかと。過去のヤマメの放流が生態系への影響が懸念されるなど。

合同パトロール

荒天時は前日の段階で中止の判断をすべきではないかと。避難小屋の利用料金の扱いは統一すべきではないかなど。

庄内海岸クロマツ林 環境美化ボランティアを実施

庄内海岸のクロマツ林や砂草地では、漂流物などのゴミが散乱し、美観を損ねるだけでなく、新たなゴミ投棄を誘発すること及びクロマツ林にも悪影響を及ぼすことが懸念されるために、庄内森林管理署と連携し、NPO、ボランティア団体、地元自治会、行政機関等の協力を得て、12月11日(土)に環境美化活動を行いました。当日は、強い北西の季節風に加え雨混じりの悪

森林・林業技術交流発表会で ふれあいセンターの取組を発表

2月15、16日に東北森林管理局で開催された森林・林業技術交流発表会に当センターから「朝日庄内に”ふれあいの輪”」と題して、森林環境保全ふれあいセンターの設置からこれまでの取組みについて、石田自然再生指導官が発表しました。



(発表状況)

当センターでは、朝日山地生態系保護地域を始めとする広範なエリアで多様な取り組みをしていますが、その中から、朝日山地森林生態系保護地域での管理委員会、モニタリング調査、ボランティア巡視について、庄内海岸林での森林整備ボランティア、環境美化ボランティアについて、高館山自然休養林でのナラ枯れ被害現地見学会についてなどを発表しました。

発表会には、国有林関係者だけでなく、民有林関係者や教育関係者が参加しており、ふれあいセンターのPRにつながったものと思います。



(会場の様子)

天候となりましたが、総勢60名により、散乱している発泡スチロールやペットボトルなどのゴミを回収しました。回収されたゴミは、300袋もの山となりました。



(参加者の皆さん)



(集められたゴミの山)

蔵王地区森林ボランティア 現地研修で来所

3月1日に、山形森林管理署で進めている蔵王地区森林ボランティア養成の一環として、森林生態系保護地域での巡視活動について現地研修のために当センターを訪れました。

伊藤自然再生指導官から朝日山地森林生態系保護地域の巡視活動について、活動方針、巡視員の登録状況、活動状況などの説明を行い、その後、質疑応答を行いました。

蔵王地区での森林ボランティアの立ち上げに、少しばかり貢献出来たのではないかと感じています。



(研修の様子)

「美しい庄内フォーラム」に参加

このフォーラムは、庄内地域の水辺や道、林などに散乱しているゴミの現状を確認し、ゴミの発生抑制に向けた対応策を探るために企画されたもので、庄内海岸のクロマツ林をたたえる会など地元のNPO法人4団体による実行委員会の主催で、3月12日に酒田市総合文化センターで開催されました。当センターも後援し、参加しました。

実行委員会から、散乱しているゴミの現状についての報告に続き、酒田市立浜中小学校の庄内浜クリーンアップ作戦について活動報告がありました。その後、業界団体、漁協、農協、NPOによるパネルディスカッションが行われました。パネリストからは、家庭からのゴミを減らすために、買い物バッグを使うようにする。庄内海岸の一部でモデル的な取組はできないかなどの意見が出され、一人ひとりがリサイクルの徹底を心がけることが重要であると集約されました。

高館山自然休養林で パトロールを実施

山形県鶴岡市の西方に位置する高館山は、里山には珍しく、ケヤキの大径木や奇形木、ブナ、分布上貴重な植物が自生するなど多くの植物を見ることができます。

特に融雪間もない早春期には、キクザキイチリンソウ、カタクリ、ミズバショウなどの可憐な花々が手軽に見られるポイントとして地元はもとより県内外にも知られています

当センターでは、空き缶などのポイ捨てや植物の盗掘などを未然に防止するために、3月下旬から4月中旬にかけてパトロールを実施しています。

編集後記

この冬は本当に大雪でした。3月末も雪模様でした。月山スキー場は、4月10日にオープンすること。今年は長く楽しめそうです。

また、山々に満々と蓄えられた雪が麓に豊作をもたらしてくれることを願っています。

ふれあいセンターも2年目に突入です。スタッフ一同さらなるステップアップに努めますので、ご支援をお願いいたします。

庄内地区フォレスター 連絡会議に参加 - 保安林事務など意見交換 -

庄内地区フォレスター連絡会議が3月17日に庄内森林管理署で開催され、当センターも参加しました。

国有林では、保安林指定を積極的に行っており、16年度末で東北局の国有林の約9割が保安林となることから、保安林指定に伴い、伐採申請や作業許可申請などの手続きが増加することが予想されます。そのため、今回の会議では、保安林事務の適正化を図ることを重点に行われました。

また、県からは、松くい虫被害やナラ枯れ被害の状況と対策などについて説明がありました。

特に、ナラ枯れは、遊佐町まで被害が拡大している状況で、これ以上の北上を防止するためにも、民有林と国有林が連携して対応する必要があることを確認しました。

- 高館山の花々 -



(キクザキイチリンソウ)



(カタクリ)



(オオミスミソウ)

発行

東北森林管理局
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404

山形県東田川郡朝日村下名川字村下97

TEL : 0235-58-1806 FAX : 0235-58-1807

E-mail : t_syounai_f@rinya.maff.go.jp